



沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



目次

1. 校長より	2	9. 1年を振り返り	12
2. 教務主事・総務主事あいさつ	3	10. ロボット製作委員会	13
3. 学生主事・寮務主事あいさつ	4	11. ISIE2020の大会結果報告	14
4. 卒業生へ贈る言葉	5	12. 2020年度就職活動を終えて	15～16
5. 卒業にあたって	6～7	12. 後援会会長挨拶	17
6. 学年の学生の様子	8～9	13. 就職・進学・志願状況、 令和3年度学生募集結果一覧	18～19
7. 修了生へ贈る言葉	10	14. 令和2年度沖縄工業高等専門学校卒業式・修了式実施要項	20
8. 修了にあたって	11		



沖縄工業高等専門学校

イハラ ヒロタカ
校長 伊原 博隆

昨年4月に校長就任し、気がつけばCOVID-19とともに一年が過ぎてしまいました。沖縄県は、人口当たりで換算すると、常に国内ワースト上位を争う感染者数となり、緊急事態宣言は三度発出されましたが、そのような中、本校は安全な学びの継続を最優先して徹底した感染拡大防止対策を進めてまいりました。この一年間、本校学生および教職員の感染者数ゼロを維持できたことは、学生自身をはじめ、保護者の皆様や、後援会、沖縄高専産学連携協力会、そして本校を応援していただいている全ての皆様のご理解とご協力があったからこそ結果と思っています。この場をお借りして感謝申し上げます。

ところで、言い古された言葉ですが、この一年は、「ピンチをチャンス」に変える絶好の機会となったことも事実です。その好例が、遠隔手法による学びの継続ではないでしょうか。一昔であれば、学校閉鎖はそのまま学びの停止に直結していましたが、遠隔授業の併用により、このピンチを乗り越えることができました。遠隔手法そのものは新しい手法ではありませんが、コロナ禍であったからこそ、あっという間に進化し、拡がり、またこれに適応できたように思います。もちろん、一層の改善が必要であることは言うまでもありませんが、ポストコロナにあっては、遠隔と対面の良い面を融合させ、より質の高い教育に発展させなければならないと思っています。

もう一つ強調したい「ピンチをチャンス」に変えたエポックは、世界の期待を一身に背負って開発された核酸ワクチンです。核酸ワクチンそのものは随分以前に提案されていたようですが、開発の難しさや安全性の確認、ビジネスリスクなど、様々な障害があったにもかかわらず、一年足らずで大量生産に至っています。もちろん、安全性に対するリスクや有効性の検証など、課題を残したままでの実用化となりましたが、未曾有のパンデミックというピンチがなければ、核酸ワクチンがこれほど早期に実用化されることはなかったでしょう。このスピードに追いつけなかった我が国の施策には少しがっかりしていますが、今後、医薬品開発におけるパラダイムシフトを牽引する可能性も大きく、大いに注目しています。

コロナ禍での私たちは、今、「変化」し、「進化」し、そして「適応」する力が問われています。コロナ禍だからこそ思いつく発想や解決すべき潜在的な課題も見えてきます。本校はこの機会をチャンスと捉え、新しい時代に適応し、地域や国際社会に求められる高専を目指します。今後とも、皆様のご理解、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



「一年間の振り返り」 ～振り返るまでもなく～

副校長（教育担当）

マキシ オサム
眞喜志 治

とあるマンガのキャラクターのセリフに、「普段はいがみ合っている、ひとたび敵が現れたら一丸となって闘う」という趣旨のセリフがあります。考えるまでもなく、すごく当たり前のことのように思えますが、とても羨ましく感じ、何度も読み返した日々が、昨日のことのように思い出されます（言及するつもりはありませんが、気持ちを正しく受け取ってくれる方々の存在を信じます）。

「学びを止めない」という大号令のもと、確かに学びの機会を提供しつづけることはできたものと思っていますが、個々の学生をみれば、果たして「本当の意味で学びが止まることはなかったのか？」と考えさせられる毎日を過ごしています。学びの主役が誰なのかを正しく理解していれば、なすべきことが自ずと見えてくるものだと思っていましたが、結局のところ、都度方向性を示す必要があったことは残念に思っていますし、今後に向けた課題が浮き彫りになり過ぎたものと受け止めなければならないように感じています（個人的には、iPadの使い方が上手になるという恩恵を受けることになりましたが…）。

新たに生じた避けようのない現実にも身を投げなければならない状況にあっては、いつもの自分を一旦仕舞い込んで、周囲を意識しながらその時々最適解を見出し、実行していかなければならず、またそれらが求められる状況が続いているものと思っていますが、どれほどの人がそのことを理解し、意識できているのかについては、全集中してみても、どの呼吸法を使ってみても分かりません。それができていれば、今頃はすべての関係者が心穏やかに毎日を過ごせていたかも知れません。

次年度は、非常時にあっても平時のように過ごせる状況を創り出せることを期待しています。



「ひとり一人ができること」の力

副校長（総務担当）

タナカ ヒロシ
田中 博

私は沖縄高専で実験の授業も担当しています。授業の中で学生には、実験に失敗はない（＝すべて成功である）、上手いかない時ほど学ぶことが多い、この2点を伝えています。学生の皆さんは創造研究や卒業研究を始めることで実感していることでしょうし、実際、授業以外でもよく当てはまると思います。

例えば「市販ヨーグルトに生きた乳酸菌が何個含まれるか？」を数える授業を実施する時、用意する市販品の中に予め「生きた乳酸菌を含まない」製品（＝出荷前に殺菌処理済）を潜り込ませておきます。計画どおりに乳酸菌が増えて数マイクロメートル（1mmの1/1000）の乳酸菌が数ミリメートルのコロニー（乳酸菌の塊）になり、「見える（＝数えられる）」ようになるチームがある一方で、何も生えてこないから他のチームの結果が気になり、どうしたらよいか「途方に暮れる」チームも出ます。皆さんはどちらのチームで実験がしたいですか？

実験はチームごとに行いますが、各チームが得た結果は授業中にクラス全体で共有します。この時、学生間では「うまくいった（＝成功）、上手いかなかった（＝失敗）」という議論が巻き起こりますが、最初に説明したとおり、私の立場ではすべてが「成功」です。なぜかといえば、「実験をした（＝取り組んだ）」からこそひとり一人が考え、みんなで議論し、必要な調査して確認し、次はこうしようとリベンジに燃え上がるからです。高専ではこのやり方を「モデル教育」とよび、一般・専門の授業や課外活動等で学び、さらに自分たちで調査・確認して得た基礎的な知識をどう組み合わせるかを、どう提案して実行できるか、この力（人間力）の育成を目指しています。「上手いかなかった」チームは、この力を伸ばすためのトレーニングをより多く積むことができるという点で学ぶことが多く、だからこそ授業中にクラス全体で共有し、他のチームにも問題解決（＝トレーニング）に参加してもらいます。数年前のことですが、実験に使用した製品を製造・販売する会社の「お客様相談センター」に直接電話し、自分たちの実験結果を担当者に説明して議論することで「なぜ？」を自ら解決したチーム（本科1年生）がありました。さすが沖縄高専生、と嬉しくなりました。

さて、令和2年度はコロナ禍での学校運営となりましたが、学校運営も「実験」と同じ考え方が当てはまると思います。平時であれば経験、というか考えること、調査・確認することさえない複数の課題（実験）について、学内のチーム（教務委員会、学生委員会、学生寮委員会、担任団、学科、学生会、指導寮生会、事務局、等）がそれぞれの立場・役割で「ひとり一人が考え、みんなで議論し、必要な調査して確認し、次はこうしようと計画」、実行しました。まさに沖縄高専そのものが「モデル教育」を「受けた」ことになりましたが、では、この「モデル教育」の「先生」は誰でしょう？

「高専の学びを安全に提供する」「感染の可能性を見逃さない」、この2つが沖縄高専としての取り組み目標でした。この目標を共有して持ち、みんなが継続して取り組めたのは、「新型コロナウイルス感染症」という取り組むべき課題（＝先生）が明らかで、「ひとり一人」が無関心でいらなかったからです。そう、取り組むべき課題を明らかに共有すれば、沖縄高専は様々な課題や提案に取り組むことでさらに人材育成で成果を挙げ、地域社会に貢献できます。そのために必要なことはコロナ禍に対しての如く、沖縄高専の一つひとつの活動に「ひとり一人」が関心を持つこと（＝無関心をやめること）です。少し強い言葉を使いましたが、この便りを読んでいただく「ひとり一人」が沖縄高専の一員として、それぞれの立場と役割で「ひとり一人ができること」を意識し、行動できる場を提供するために動きたい、と考える1年になりました。



こんな時だからできたこと

副校長（学生担当）

ヒガ ヨシカズ
比嘉 吉一

前年度より準備を進めていた「体育祭」「高専祭」をはじめとする大規模な学生会イベントについては、年度当初より、運営メンバーの大半が登校できず、慣れない遠隔授業がスタートする中、こちらにも慣れないウェブミーティングを利用しながら、イベント開催に向けて積極的な議論を進めて来ましたが、しかしながら、安心安全な学校生活を継続する観点から、断腸の思いで学生会執行部および実行委員会にて中止の判断を行いました。そのような中でも、学生会主導で初のリモート形式となる「新入生向け課外活動団体紹介（2020/07/16）」、「臨時学生会議会（2020/10/26）」の運営・実施をしました。全学生の登校が再開した2020/12/07以降では、「令和3年度学生会長・副会長選挙（2021/01/06 - 15）」、「令和2年度後期期末構内清掃（2021/01/20）」、「令和2年度学生会第2回部会（2021/02/09）」、「令和2年度卒業生・修了生向けプレゼント贈呈イベント（2021/02/10）」といった数多くのイベント運営を『新しい生活様式』と表す感染症拡大防止策の下で、無事に開催・成功裏に導くことができました。

一方、課外活動については、3、4年生の登校が再開した後学期スタート（2020/09/23）に合わせ、学生会部会長の指示の下、活動団体独自の感染症拡大防止策を策定・実践することで、順次、課外活動を再開することができました。沖縄県独自の緊急事態宣言が発出されている現在、土日祝祭日の活動を制限しておりますが、これまでに蓄積した経験値をベースに、新年度はスタートから『新しい生活様式』の中での課外活動が、より積極的に実践できることを確信しております。



学生寮の新しい生活様式

副校長（寮務担当）

ハマダ タイスケ
濱田 泰輔

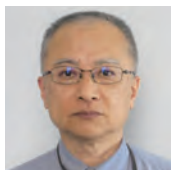
今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月のスタートから学生寮では初めての経験がたくさんありました。寮生のみなさんはそれらの事に対応して生活をしてくれ、2月の学年末の閉寮を迎えることができました。4月には閉寮が決まり遠隔の授業が始まりました。6月に入って開寮致しましたが、全寮生が揃っての寮生活は難しく学年により入寮と在宅を交替する分散入寮で、全学年そろっての生活は12月に入ってからでした。

分散入寮により開寮して生活を始めましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための三つの密を避ける「新しい生活様式」の実現のため、様々な対応を致しました。ルールブックを作成して、寮生全員で感染拡大防止に努めました。まず、特別日課により生活しました。起床時刻、食事時間、入浴時間などの変更により、密集、密接や混雑の回避を図りました。食事や入浴は学年ごとの時間割を設定しました。特に、食事における感染防止については、手洗い手指消毒の徹底、密集、密接にならないように、着席数の削減、アクリル製のパーティションの設置、出食方法の改善などを実施しました。また、寮内でのマスクの着用、三つの密を避ける行動を励行してくれました。教職員も「新しい生活様式」の定着のため指導に努めました。

今後も新型コロナウイルス感染防止の「新しい生活様式」での生活が続くと予想されます。寮生のみなさんの一人一人の感染拡大防止の行動を期待します。

卒業生へ贈る言葉

5 学年学科担任



機械システム工学科

マ キ シ タカシ
眞喜志 隆

早いもので、入学してから5年が経とうとしています。この1年間の担任を担当しましたが、特に今年度は年度当初からのコロナの影響で対面での講義ができず、半分近くが遠隔での講義になってしまいました。5年生は卒業研究の時間が十分に確保できず、かなり苦労した1年になったと思います。就職・進学活動でも、初めての試みであった遠隔での就職試験や編入試験にだいぶ振り回されてしまい、社会状況の大きな変化で希望の進路先に行けなかった学生もいたことと思います。コロナの影響は今年も続いており、新しい生活様式が当たり前になる時代になっているように感じます。これから先もいろいろなことが起きて、社会が変化していくことになると思います。それぞれの選んだ先で、その時にできることにきちんと取り組んで、ゆっくりでいいですから確実に進んで行って下さい。沖縄高専に入学して得られたことや知り合った人たちとの関係を大切にして下さい。ご卒業おめでとうございます。



情報通信システム工学科

アイカワ ヨウヘイ
相川 洋平

15年前、私は高専を卒業しました。卒業というイベントに対して当時は然したる感傷に浸ることもなく、そのまま消化して大学へと進み、大学院を経て民間企業に就職しました。いわゆる社会人となった訳ですが、新人研修などを経るなかで、社会が意外にも学校と似たものであることを痛感しました。その後、4年働き離職するのですが、退職届を提出した時にふと「卒業したんだな」という想いが胸をよぎりました。皮肉なもので、なんとなく定年まで見ていたレールから降りて初めて、社会人になったと実感することができました。

みなさんにとって卒業とは何でしょう？ 社会人とはどんなものを想像していますか？ 卒業の前後で変化するものは一体何でしょうか？ 普段の生活では決して意識しないことだと思います。節目を迎え、自身にとって卒業が何を意味するか一度考えてみると良いかと思います。その際に、きっと思い返すであろう5年という年月が、皆さんにとって肯定できるものであることを願っています。卒業おめでとうございます。



メディア情報工学科

タマキ タツヒロ
玉城 龍洋

メディア情報工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。新型コロナウイルスの影響は大きく、大変な1年となりましたが、高専5年間の最後の年に皆さんの担任として一緒に過ごせて嬉しく思っています。

高専の5年間はどうか。多くの事を学び、多くの事を楽しみ、そして、多くの悩みや不満を感じながら様々な経験をしてきたと思います。誰も答えを教えてくれない、そもそも答えがない世界で自信を持って前に進むために、自分の立ち位置、向いている方向を知るために経験と知識という方位磁石が必要です。高専5年間の経験は、その嫌な事辛いことも含めてとても大切なものです。これからもいろいろな経験し、いっぱい失敗しましょう。そして、休みましょう。必要な時に、大事な時に全力を出すために。ここからからだに余力を残して活動しましょう。

最後に、社会は広く、複雑で、難しい。でも、未知のを知ることを経験することはとても楽しいことです。楽しんでください。



生物資源工学科

タケモト
嶽本 あゆみ

5年生のみなさん卒業おめでとうございます。前例のない遠隔授業続きの環境、楽しみにしていた体育祭や高専祭などもすべて中止となった一年でした。特に生物資源工学科は卒業研究には実験が必要で、卒業研究も思うようには進められずもどかしかったことと思います。卒業研究最終発表では例年に負けず劣らずの成果が報告されていて、皆さんの頑張りが証明されていました。

今後、就職先や進学先で、この一年間の創意工夫に満ちた経験が活かされることでしょうか。更なる将来に向けて、それぞれの道をしっかりと進んでいてください。



機械システム工学科

オオガネ クリヨ
大兼久 里葉

沖縄高専に入学して5年が経ち、振り返ればいろいろなことが思い出されますが、すべてがよい思い出であり、今の自分を形作る糧となっているように思えます（都合よく、良い思い出にしているだけかもしれませんが…）。憧れだけで入学を決めた沖縄高専でしたので、入学当初は明確な目標もなく、やりたいことやなりたい自分をイメージすることができないまま日々過ごしていました。当然、勉強にも身が入らず、漠然と時間だけが過ぎていたように思います。それでも、時間が経つにつれ、周りを見渡すことができるようになり、寮生活や部活動を通じて、誰かのために行動することの大切さ、素晴らしさを学ぶことができたと思っています。さらに、人と人との繋がり的重要性を身に染みて感じることで、なぜか勉強にもそれなりに真面目に取り組むようになりました。きっと、周りのみんなに影響されたのだと思います。おかげで、スムーズに卒業までたどり着けたように思います（原稿執筆時点では卒業見込みですが（^^））。

5年生を目前にして、沖縄高専で学んだ知識や技術を活かし、社会に貢献することを目的に始めた就職活動でしたが、様々なことを調べているうちに、地域に直接貢献できる仕事に就きたいと思うようになりました。そこから、沖縄高専の5年間の中で、最大限に真面目に考え抜いて、知識や技術よりも、「誰かのために行動する」ことを重視しようと思えました。その結果、幼い頃から興味があった警察官を目指すことにしました。5年間学んだ機械工学とは縁のないように思える職業ですが、自分が得た知識、技術は必ず生きてくるものと考えていますし、何より沖縄高専の教育理念にある「人々に信頼され」には十分合致した職業だと思っています。このように自分でしっかり考えて進路を決めることができるようになったのも、沖縄高専で過ごしたからだと強く思っています。

最後になりますが、進路の選択はこれからの人生に大きく影響を与えるものなので、本当にやりたいと思えることをできるように、向上心を忘れず、常に自分を磨き続けてください。



機械システム工学科

ナカミネ セイユウ
仲嶺 征優

約5年前の中学3年の冬、自信をもって挑んだ推薦入試で見事沖縄高専に合格した私は、夢と希望を抱き、根拠のない自信とともにその年の4月に高専生活をスタートさせました。しかし、わずか一週間で高専の雰囲気戸惑い、ペースをつかみ損ねたことで、早々に進路変更に悩み、何度も親に相談していたことが昨日のように思い出されます。あの時、「親の説得を受け入れず、退学を決断していれば」と思える出来事が何度もありましたが、一方で、沖縄高専で出会った多くの人たちは、私から見れば「いい意味」で変わった人たちで、自分の考え方や価値観に大きな影響を及ぼし、自身の成長に繋がる出会いであったと強く思っています。「勢いに任せて退学を選ばなくてよかった」と、あの時退学を決断できなかった自分を褒めてあげたい気持ちでいっぱいです。たくさんの良い出会いがあったにも関わらず、勉強面では苦戦の連続で、その都度、周りからの厳しくも愛情あふれるサポートのおかげで、「仮」ではありますが、スムーズに進級することができ、今日に至っています。この原稿を書いている時点では、卒業をほぼ手中に収めたといっても過言ではありません。

やりたいことが中々見つからず、悪戦苦闘しながらも希望する進路を見出すことができましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、第一希望であった企業は採用試験が中止になり、かなりの絶望感を味わいました。そこからの切り替えがスムーズにいかず、流れのままに受検した専攻科も不合格となり、お先真暗な状況に陥ってしまいました。しかし、そこから自分を見つめなおし、周りからアドバイスをもらいながら、一念発起して挑んだ専攻科二次募集で何とか合格することができました。自分の不甲斐なさを再確認し、周りにいる人たちのありがたみを再確認することとなり、今後の励みにならと思っています。

結局のところ、周りからのサポートを受け続け、周りの成長を羨ましく思いながら過ごす5年間となったように思えますが、そこから得られたものは大きく、十代の後半を沖縄高専で過ごすことは、その先の人生に大きな影響を与えるものだと思っています。だからこそ、沖縄高専での5年間を大切に、悔いのない学生生活を過ごすことが重要だと、今なら素直に思えます。

最後になりましたが、ともに過ごしてきた友人、たくさんのお世話になった教職員の方々、そして多くの心配をかけ、私のわがままを全部聞き入れてくれた両親に深く感謝致します。



情報通信システム工学科

タケザト ケンタ
高里 健太

私が5年間で最も大変だった時期は就職活動中でした。4年生では、興味のある分野だけではなく、自分の苦手な分野のインターンにも応募しました。その結果、私の向き、不向きなどの自己分析をしっかりと行えたので、今の内定先に巡り合うことが出来たと思います。在校生の皆さんも、苦手だけど興味のある分野がある場合は迷わず挑戦してください。

5年生になると本格的に就職活動が始まりましたが、コロナ禍というとてもイレギュラーな期間でした。学校にも気軽に行けず、内定が頂けるかとても不安でした。そんな中でも担任の相川先生をはじめ、指導教員の亀濱先生からとても安心できる、力強いサポートをして頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

最後になりますが、この5年間、いろんなことを教えて頂いた先生方、一緒に学び遊んだ友人、何より20年間支えてくれた両親に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



情報通信システム工学科

フクイ ケイジ
福井 慶次

5年間、一瞬でした。ほんとに。大学に行きたくないという理由でなんとなくここに来た私ですが、今はここにきてほんとに良かったと感じています。16～20の間の5年という時間は本当に何でもできます。一番何でもできる年齢であり、なんでもできる環境が高専にはあります。自分のこれからに必ず繋がる、「なりたいものになれる5年間」です。やりたいことがなくても、見つけようと思えばほんとにいくらでも見つかる、沖縄高専はそういう場所でした。私は三年次までは将来やりたいことなんてありませんでした。そんなとき、様々な企業が説明会をしてくれる業界研究会が開かれ、そこで何となく覗いたブースが、私のやりたいことに繋がりました。また、学生と先生の距離も近く、何かあれば相談できるという絶対的な安心感もありました。これからまた未知の環境に身を置きますが、この5年間で培った自分らしさを発揮し、充実したこれからの作っていきたいです。



メディア情報工学科

 オオギ ミレイ
大宜見 玲

新学期です。卒業生は、新たな環境に解き放たれる大きな期待を感じている一方で、今までの学生生活を振り返り、想いを馳せていると思います。私もです。入学したての頃は、『華やかな学生生活を送るぞ!』とえらく意気込んでいましたが、「そこそこの勉強」が中学のように通用しなかったため、すぐに勉強ができないという劣等感に苛まれたのを覚えています。やっていただけなのに。ただ、当時はTwitterでの自虐ネタ、「赤点」や「留年」といった言葉がとても新鮮で、面白く感じていました。不勉強をネタとして消化でき、学ぶことから逃げて、みんなを「笑わせる」ことができました。しかし、学年が上がるごとに、本当は「笑われている」という事実と向き合い続けるのに苦痛を感じました。結果、これじゃダメだと思い、少し真面目になりました。そして、先生や友人に課題や授業のわからないことをたくさん教えてもらい、今年、なんとか無事卒業できました。真面目に勉強と向き合うほど、点と点だった知識が繋がって線になり、おもしろいです。同時に、まだまだ学習し足りないなという、心地の良い無力さも感じます。私の5年間はこんな感じでした。何こいつ。って思った方はそのままのあなたでいてください。共感できちゃった方、残りの時間を自分のためにも有意義に使ってあげてください。最後に、こんな私を見捨てず卒業まで導いてくださった先生方、友人に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



メディア情報工学科

 ヒガ ユウユケ
比嘉 雄亮

入学当初は「学校までのこの長い道を5年間も送迎するのは大変だ。」と両親は言っていました。私もそう思っていました。しかし、5年生の後期には「この長い道を送迎するのもあと数回だな。あっという間だったな。」と話していました。私たち5年生だけでなく、保護者にとっても高専卒業なのだなと感じさせられました。

そんな5年間は山あり谷ありでした。私に高専は合っていないのではと考えたこともありましたが、今は面白い専門分野に出会い、さらに学びたいと思っています。しかし気付けば卒業寸前でした。5年はあっという間でした。

まだまだ未熟ですが、沖縄高専で学んだことを活かして努力していきたいと思います。

最後に、これまでご指導くださいました、教職員の皆様、友人、そして家族に感謝を申し上げます。



生物資源工学科

 オクハマ ショウヘイ
奥濱 翔平

入学前は果てしなく長いと思っていた5年も振り返ればとても短く感じます。中学を卒業して、初めての寮生活に心踊らせていたのも初日まで、それ以降は洗濯や掃除を自分で行いながら、部活と勉強を両立するという生活が想像以上に忙しく、「実家に帰ってゴロゴロしたい」と毎日のように友達と話していたのを覚えています。特に部活が野球だったこともあり、夜まで練習した後大急ぎでご飯を食べ、そのまま走ってお風呂に行き、寮の清掃を行い、野球着を洗濯してレポートを書いたらもう消灯時間、という日も多く精神的にも肉体的にも辛くなってしまう事は少なくありませんでした。そんな中でも、友達や先輩、部活の仲間達に恵まれ、どうにかここまでやっていくことができました。また、この五年間を有意義に過ごせたのは、部活でなかなか帰らず、連絡もまめに取らない自分をいつも気遣い支えてくれた家族のおかげでもあります。振り返れば、このように多くの人に助けられた5年間でした。この感謝を忘れずに進学先でも一生懸命頑張ります。



生物資源工学科

 アイカワ サエ
相川 紗英

2016年4月に入学してから月日は流れ、気がつくと5年が経過していました。低学年のうちは、県立高校に進学した友達を楽しそうに見え、高専に入学したのは間違えたかもしれないと思った時期もありましたが、今では高専の“実践的な学び”ができてよかったと思います。例えば、レポートで分かりやすく簡潔に表現する力、疑問点を考察する力は、5年という経験を積み、習得する時間があったからこそ考え方の型が身についたと実感しています。また、高専には青春がないと言われがちですが、振り返ってみると高専祭や体育祭はもちろん、普段の学校生活での何気ない日常が青春だったなと感じています。今年は新型コロナウイルスの影響で、いちばん楽しみにしていた5年生での行事が中止になったことが心残りですが、卒業後は大学に進学するので、学生のうちにしかできないことを楽しみたいと思います。最後に、高専で出会った先生、先輩、後輩、そして13期のみんな、5年間ありがとうございました！

学年の学生の様子



1 年生の様子

第1 学年主任
総合科学科

ナリ タ マコト
成田 誠

2020 年度は感染症による未曾有の1 年でした。特に新入生としての1 年生は入学式も行えないまま遠隔方式による授業開始となり、その混乱は計り知れないものだったでしょう。それにも拘らず1 年生の皆さんは周到に準備をし、授業についてきてくれたかと思います。そこには保護者の皆様の多大なご協力もありました。

学生寮に於いても、不慣れな生活環境の中で寮規則に従い、また感染症対策にも積極的に対応してくれました。この状況下で本校として最も不安視していた寮生活も無事で何よりです。

体育祭・高専祭と学生主体の行事がことごとく中止となり、勉学以外での活動がほとんどできませんでしたが、10 月より部活動が再開しそれに応じて各部への入部希望者も多々見られます。数か月でしたが『勉強も課外活動も』という“学生生活”と呼ぶことができる時間があったことは幸いです。一つ残念なことは新入生（1 年生）と卒業生（5 年生）と一緒に練習する機会が余りなかったことです。

2021 年度は平時に戻り、学生の皆さんが充実した学生生活を送ることができるよう願うばかりです。我々教職員はそんな皆さんを全力で支えていきます。



2 年生の様子

第2 学年主任
総合科学科

ヤマモト ヒロシ
山本 寛

こんにちは。西暦 2020 年度 2 年主任の山本です。得意な仕事は「雑用」です。

1. 西暦 2020 年度の振り返り

本年度は、例年に比べて大変でした。勿論、コロナウィルス感染症のせいです。4 月の始め、対面授業ができず、かといって、教員側、学生側双方で遠隔授業の準備も整っておらず、ずっと休講。学校は遠隔授業の為のコンテンツの準備と、学生側の通信環境の確認、確保に追われました。そして、5 月の連休明け（5/11）から、ようやく遠隔授業が始まります。体育祭、高専祭は、残念ながら中止になりました。学年の様子を、遠隔授業期間中の LHR（ロングホームルーム）を見ながら振り返ってみましょう。

前学期：学科別 LHR（遠隔）

学生主事の比嘉先生の講話（遠隔、2 年合同）

2-1 担任の島尻先生の講話（遠隔、2 年合同）

キャリア教育センター長講話（遠隔、2 年合同）

2-2 担任の吉居先生の講話（遠隔、2 年合同）

2-3 担任の下郡先生の講話（遠隔、2 年合同）

交通安全講習会（学生主事の比嘉先生）（遠隔、2 年合同）

【2 週間だけ対面授業】

2-3 担任の下郡先生の講話（遠隔、2 年合同）

後学期：2-4 担任のカーマン先生の講話（遠隔、2 年合同）

「表現の自由と民主主義」（下郡先生、山本）（遠隔、2 年合同）

「民主主義と多数決」（下郡先生、山本）（遠隔、2 年合同）

「数学パズル」（吉居先生）（遠隔、2 年合同）

【対面授業開始】

2. ピンチがチャンスに変わらなくてもそれはそれで善し

私は今までピンチがチャンスに変わった事がなく、従って「ピンチは地道な努力で切り抜ける。切り抜けたあと、結果としてなにか得るものが有るかもしれないが、もしかしたら無いかもしれない」、「ピンチは切り抜けられただけで儲けもの。それだけで偉い！」くらいに考えています。いいじゃないですか。チャンスに変えられなくても。生き延びただけで十分偉いですよ。（注：個人の感想です）

それでは皆様、ごきげんよう。（←森田先生風に、うちわをぱたぱたしながら）



3年生の様子

第3学年主任
メディア情報工学科

ニシムラ アツシ
西村 篤

2020年度の3学年は、前学期が全て遠隔授業となり、後学期も5週が遠隔授業であったため、年間30週の授業のうち20週が遠隔授業でした。体育祭・高専祭が中止、研修旅行も次年度に延期となり、学生が楽しみにしていたクラス行事がまったくなくなってしまいましたが、学生達は学級役員、学生会役員、寮生会役員、等を引き受けたり、互いに協力したりして、正課の授業での学習だけでなく、特別活動や課外活動にも熱心に取り組んでくれました。査証発給の遅延のため入国できなかったモンゴル国政府派遣留学生1名（メディア情報工学科3年生）が2020年10月25日から本校で生活できるようになったことは、気分の晴れない時期における素晴らしいニュースのひとつでした。この原稿を執筆している2021年2月12日現在、学生の成績はまだ確定しておらず、再試験や不足する課題の提出が継続されています。一人でも多くの学生に進級してもらうため、3学年の担任・副担任は、目下のところ、科目担当教員等の関係教職員と連携して学生の指導・支援に注力しているところです。2021年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況の収束に向けた見通しが立ち、校内外において学生の活発な活動・交流が再開できるようになればと願います。



4年生の様子

第4学年主任
機械システム工学科

タケムラ フミアキ
武村 史朗

機械システム工学科 4年担任（学年主任）武村史朗です。前期はすべて遠隔授業、後期は1/3遠隔、2/3対面授業で変則的な時間割となり、学生・保護者の皆さんに大変ご不便をおかけしたことで存じます。ご協力いただき、感謝申し上げます。卒業前の学年である4年生はインターンシップという企業での現地就業体験を毎年していますが、今年はコロナ禍の影響もあり、その体験をすることができず、オンラインによるインターンシップへの参加を一部学生が行いました。12月からオンライン業界研究会など企業の方と対話できる機会をキャリア教育センターで設けていただき、進路について学生一人一人が考えています。この冬休みにもご家庭でいろいろと話が出たのではないのでしょうか？現在、オンラインによる業界研究会を企業で開催していただいております。学生はそこへの参加をしております。コロナの状況が落ち着いてくるようでしたら、春休み期間には、学生自身が県内外の企業に訪問する機会があるかもしれません。ご家庭におかれましては、お子様の県内外の企業訪問の際にはコロナ感染症対策に関してのご確認をお願いいたします。進路に関して、学生もいろいろと考える時期になります。進級・進路活動に向けて、担任も学生の手助けができるよう活動していきます。

修了生へ贈る言葉

専攻科2年生へ贈る言葉



機械システム工学コース

タケムラ フミアキ
武村 史朗

機械システム工学コース コース主任 武村史朗です。専攻科の2年間はどうか？この1年は登校が思うようにできない期間もあり、これまで経験したことのない期間となりましたね。そんな中の特別研究最終発表会はこれまでの研究成果をきちんと発表できていたように思います。さすが、専攻科生と感ずるところもありました。食事や睡眠時間の確保など、若いときはとかく気にしないのですが（僕もそうでした。年を重ねると嫌でも早寝早起きになります）、生活習慣には十分気を付けて下さい。将来への不安など、いろいろと悩むこともあるかと思いますが、話せる人がいたら話を聞いてもらい、一息ついたらとりあえず与えられたことをする、ようにしましょう（することあるなら、悩む時間が勿体ない。先にすることをしよう、でもあります。僕が院試の勉強していて感じたこと）。今後の活躍を期待しています。



電子通信システム工学コース

タニフジ ショウイチ
谷藤 正一

専攻科修了生の皆さん、おめでとうございます。高専生活の7年間、皆さんにとって長かったですか？それとも、あっと言う間でしたか？最後のコロナ禍での1年は、情報通信システムの恩恵を感じると共に、初めて経験することばかりで戸惑いや不安、ストレスも大変だったと思います。特別研究の最終発表会で進捗を聞きましたが、平均を取ると当初の計画のおよそ7割でした。自身が思った通りのことができない、もどかしい思いが募っていたかも知れません。そんな思いを断ち切ったのは、何でしたか？やはり、これまで自身が学んで獲得した「経験」だったのではないのでしょうか。進学する学生はもちろんですが、就職するにしても学びの日々は、まだまだ始まったばかりです！継続的な自己研鑽が自らを成長させ、スキルの幅を広げることに繋がります。たとえ沼にハマったとしても、ゆっくりでも、少しだけでも、進んでいくことが大切です。高専生活で培った能力を信じ、前に向かって行きましょう！皆さんの更なる飛躍に期待します。・・・



情報工学コース

イ ハ ヤシ
伊波 靖

情報工学コース コース主任の伊波靖です。特別研究のまとめや就職活動に一番大事な1年がコロナの影響で大変だったと思いますが、無事にすべての課程を修了できたことを心からお慶び申し上げます。4月からは新しいステージで頑張っていくこととなりますが、その時が「With コロナ」なのか、「After コロナ」なのかまだよく分からない状況ですね。しかし、どちらにしろ、まずは心と身体のケアを第一に考えて、出来るところから少しずつ頑張っていくってください。この1年の「With コロナ」の中で得た経験は、きっとこれからの人生の中で役に立つと信じています。そして、会社に入ってまず大切なことは、先輩から可愛がられる後輩になることだと思っています。尊敬できる先輩や上司を見つけ、積極的に質問したり、出来ることを手伝ったりして、可愛がってくれる先輩を増やしていくってください。

では、いつか修了生の活躍を目にする日が来ることを信じてお祝いの言葉としたいと思います。



生物資源工学コース

タマキ ヤストモ
玉城 康智

生物資源工学コースの皆様、専攻科修了おめでとうございます。学科教員を代表し皆様の門出を心からご祝福いたします。専攻科で過ごした2年間は振り、最も心に残ることは何ですか？この問いかけに対し、ほぼ全員が「新型コロナウイルスによる様々な影響」について答えるでしょう。私自身、これまで経験したことのない出来事が現在もなお続いている状況です。そのため、最終学年の大切な時期に自宅待機となり、研究対象となる細胞や微生物の観察が継続できないなど、生物を対象とした研究に不利であったことは間違いありません。このような状況の中、皆様が「高い自主性」を発揮し、目の前の課題に一生懸命取り組んだ結果、専攻科を修了し「学士」を取得することになりました。

皆様にとって専攻科の修了は、ひとつの通過点であり、新型コロナも皆様の人生ではひとつの出来事になると思います。しかし、私はその通過点や出来事を通して「何を学んだか」でその人の人生が変わると信じています。これからの皆様のご活躍を楽しみにしています。



機械システム工学 コース

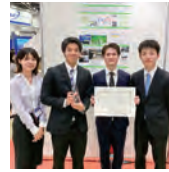
ヤ ラ ユウ キ
屋良 祐希

私が沖縄高専に入学してから7年が経とうとしています。私は「技術者」という言葉に憧れて沖縄高専に入学しました。先輩方から機械科が一番楽しいと聞いていたため、機械システム工学科を選びました。今日まで、人生の約1/3を沖縄高専で過ごしましたが、振り返ると7年間はあっという間でした。もうすぐ修了かと思うと、感慨深いものがあります。本科では寮生活も経験し、たくさんの友達を作ることができました。入学時の学科における同期の数は40名程でしたが、本科卒業時には気づけば30名程度にまで減っていました（笑）。機械システム工学科は他学科と比べ男子学生の数が多く、勉強が厳しい分友達との友情がとても強くなり、体育祭や高専祭ではほかのクラスよりも最も盛り上がるとても楽しい学科だと思っています。また、機械システム工学科の先生方はとても優しく個性豊かであるため、非常に良い環境で専門知識を学べたと思っています。5年生になると就職か進学かの選択がありましたが、私はこの楽しい学生生活を続けたかったため専攻科に進学することを選択しました。

専攻科に進学すると、機械システム工学コースの同級生は5人となり、少し寂しい学生生活になりました。専攻科では他コースとの合同授業があったり、他コースの授業を受けることができたり、また専攻科の授業は選択科目が多いため少人数での授業だったり、さらには今年度はオンライン授業もありとても新鮮でした。

専攻科修了後は内定を頂いた企業に就職し、4月からは新社会人として新しい生活が始まります。社会人になることに不安な気持ちがありますが、この7年間で学んだ知識や技術そして経験を基に企業でも活躍できるように頑張りたいと思っています。

最後に、授業や研究などで熱心に指導して下さいました教職員の皆様、一緒に過ごしてきた友達、育ててくれた両親に心から感謝申し上げます。また、沖縄高専の更なるご活躍と発展を祈念いたします。今までありがとうございました。



電子通信システム工学 コース

シロ タ リ リ
城田 璃々

入学して約7年間、長い年月沖縄高専でお世話になりました。専攻科では同コースの女子がみんな卒業してしまい、男子の中一人で授業や研究を行ってきました。最初は相談をする相手もおらず寂しかったのですが、日々を過ごすにつれて周り打ち解け、今ではとても仲良くなりました。今年度はコロナで遠隔授業などもあり、直接会うことはありませんでした。みんなで情報共有をし、全員単位を修得することができました。無事終了することができたのは友人達がいてくれたおかげです。この場を借りてお礼を申し上げます。

私は専攻科修了後、県外の企業に就職します。友人達と進路は違いますが、皆新しいステージで力を発揮し、それぞれの立場で活躍することを期待しています。私も負けずに一生懸命努力し、日々精進していきたいと思っています。

最後になりましたが、この7年間厳しくも優しく見守ってくださった教職員の皆様、辛い時に協力しあってきた大切な友人達、これまで育ててくれて高専に通わせてくれた両親に感謝の言葉を伝えたいです。本当にこれまでありがとうございました。



情報工学コース

イ レ イ ヤス シ
伊礼 恭士

私が入学して7年の月日が立ち、もうすぐ修了を迎えようとしています。在学中はとても長く感じていましたが、終わってみると短かったように思えます。

初めて入学したときは、勉強について行けるか、寮生活について、周りの友達と馴染めるかなど、たくさんの不安がありましたが、いざ入ってみると、個性豊かな人がたくさんいて、どんな人でも気の合う友人を見つけることの出来る良い環境だと思いました。

1、2年くらいの低学年の間は、多くある一般科目の授業についていくことに精一杯で、寮では友人たちとともにプレッシャーを掛け合って、勉強をしていたことを覚えています。今思えば、この頃たくさん勉強していた際に、周りの人に勉強法を聞いたりして、自分なりの勉強法を確立したことが、今の自分の役に立っていると感じました。高学年になると専門科目が始まり、自分の興味のあることの勉強が多かったため、楽しく過ごせたと思います。専攻科に進学した後は、本科では学べなかった、先生方の専門分野についてもっと突っ込んだことについて勉強することが出来て、新しい刺激がありました。研究活動は、きつい時間も長くありましたが、修了の際は達成感に満ちていました。その他にも、部活やインターンシップ等の様々な課外活動も行えました。いろいろなことに挑戦する学生を、応援してくれる学校の姿勢には、すごく感謝しています。

私は春から就職します。そこでは高専で学び経験した、様々なことを生かして、日々頑張りたいと思っています。

最後に、共に過ごした友人たち、たくさんお世話になった教職員方、育ててくれた両親に深く感謝を申し上げます。



生物資源工学コース

タカ ラ イッペイ
高良 一平

私は沖縄高専に入学して約7年、人生の3分の1を高専で過ごしました。私は本科4年生の時に生物学と情報学が融合したバイオインフォマティクスに興味を持ち、本科在学中に日本バイオインフォマティクス技術者試験に合格することができました。現在はバイオインフォマティクスの知識を活用し乳酸菌の機能性や腸内フローラの研究をしています。お腹に住んでいる細菌の種類、多様性が肥満やがん、アレルギーなどの免疫系に関係するなんて、とても不思議なものです。高専では積極的に行動すれば充実した研究活動を行うことができます。私も特別研究だけではなく沖縄県のライフサイエンス事業、琉球大学医学部との共同研究など積極的に参加し充実した研究生活を送ることができました。沖縄高専で培った知識、経験を次のステージで生かせるように大切にしていきたいです。これも日頃支えてくれた教職員、友人、家族のおかげです。心より御礼申し上げます。今までありがとうございました。

1年を振り返り

本科1年生



機械システム工学科

イリフクハマ タクミ
入福濱 匠海

こんにちは。沖縄高専1年1組（機械システム工学科）の入福濱 匠海です。

僕はもうすぐ高専生となって一年を迎えるのですが、この一年を振り返ってみると、とても長いようで短い一年間でした。

前期は新型コロナウイルスの影響により、登校もできずに遠隔という形での授業で、初めてのパソコン操作に戸惑うことも多くありました。そして後期になって、やっと登校ができるようになり、普段は遠隔から参加していた授業が対面授業に変わり、より楽しくなりました。

そしてこの一年で学科やクラスにも多くの友達ができました。僕たち一年生は一つ一つの授業を大切にこの一年を過ごしてきました。また、その中で仲間と協力することで解決にたどり着くことができ、協力して一つの課題に取り組むことで互いに信頼や友情を育んできました。

僕たち高専生は毎日の経験や発見を通して個々の夢に一步一步進んでいます。

これからの情報社会で必要になってくるプログラミングや、ロボットの製作、学びの探求に興味がある人は是非、沖縄高専に来てみてください。皆様の来校を楽しみにしています。



情報通信システム工学科

ヨシ ミ ナル
吉見 成

入学したてだと思っていた高専生活も早1年が過ぎようとしています。この1年間は自分にとって起点ともなる1年でした。なぜなら「高専で学び、新しいことに触れ、新たな挑戦をしようと思った年」だからです。自分が入学した年は皆さんもご存じの通りCOVID-19（コロナ）が流行り始め、4月から5月は授業も始まらない様な状況でした。正直勉強しなくてもいいのでちょっと喜んでた自分がいましたが（笑）。

それから遠隔授業を経て対面授業になったかと思えばまた遠隔授業になったりと色々バタバタしていました。遠隔授業だとなかなかやる気が起こらず受講が溜まったり、対面じゃないのでわからない所をすぐに聞けなかったりと不便なところはありません。今は対面授業ですが、これ以上深刻になるとまた遠隔授業に戻りそうなので早くCOVID-19が去ってほしいところです。また先輩達の話によると、今年の1年生はCOVID-19のお陰で成績が甘めだそうです。個人的にはそれでも難しかったのでそれより大変だと思うしんどいです（笑）

大変な事もありましたが、担任や教科担当の教員、クラスの皆に支えられながらやってきました。担任や教員は面白い先生が多く、自分も楽しみながら勉強をすることができました。自分のクラスはやることはやるというメリハリのあるクラスで、授業への取り組み方はもちろん、課題も提出できていてとても頼もしいクラスです。重要な課題などは互いに確認しあうことができていて自分としてもすごく助けられています。対面授業が始まるのが遅れたことから同級生達と実際に会うのが遅れ、初めは静かで笑いも少ないクラスでしたが、今では皆活気づいて、発表や質問も増えています。自分は今「もう1年おわりか〜」ととっとてできることがあったと思ったと同時に、来年はもっとやりたい事をやろうと思えました。

皆さんもやりたい事が出来ていますか。

今が一番若い時ですのでやりたい事を思いっきりやってみてください。



メディア情報工学科

イイダ ヒヨリ
飯田 日和

初めのころはコロナの影響で楽しみにしていた高専生活はできなかったけれど、遠隔授業独特の勉強の仕方を体験することが出来ました。同級生の顔を見ることなく授業が始まって、ほとんどが自習のような形式で戸惑いも多かったのですが、講義資料を見返しながら受講をするなど、自分のペースで進めていくことができるため、助かったなと思ったこともあります。対面では初めて同級生と会うことができて、友達が出来るとかどうかととても心配していた私ですが、席の近い女の子同士話して意気投合してとても楽しく学校生活を過ごすことが出来ました。授業についていけないことがあっても質問しあったり、教えてもらったりと、勉強を楽しむことが出来てよかったです。入学する前と後では高専というイメージがかなり変わり、いろいろと周りの影響を受けた一年でしたがとても充実した一年を過ごせたので良かったです。



生物資源工学科

キクヤマ モモ
喜久山 桃

高専に入学してもう一年がたつなんて、本当にあっという間だなと思います。

高専という新しい環境に加えて、今年度は新型コロナウイルスの影響もあり慣れないことだらけでしたが、そんな中でも高専ならではの環境で、たくさんの学びを得ることが出来たと思います。

特に生物資源工学科専門科目の、バイオテクノロジー基礎実験の授業では、遠隔授業の中でも、身近なものをスケッチしたりおうちにあるもので簡単な実験を試みたりと、実際に手を動かして学ぶことが出来ました。また90分の2コマ分、みっちり先生のお話を聞く授業もあり、個性豊かな先生方からとても楽しく、たくさんの知識を学ぶことが出来てすごく勉強になりました。遠隔授業だったからこそ、例年よりも先生方のお話をいっぱい聞けたと思います。対面授業になってからは、毎時間実験があったりお外に出て植物観察する授業があったりと、遠隔授業の時よりも実際に自分の目で見たり、手を動かしたりできる機会がすごく多くて、とても楽しかったです。

来年度は、楽しみにしていた創造研究や、高専祭などのイベントも目一杯楽しんで、高専の素敵な環境をもっともっと味わえたらいいなと思います。

ロボット製作委員会



ロボット製作委員会
Aチーム リーダー
機械システム工学科2年
ナカムラ ヒデナリ
中村 英誠

ロボット製作委員会 Aチーム（今年度）チームリーダーの中村英誠です。

私達ロボット製作委員会では、NHK 主催の高専ロボコンに出場するロボットを製作しています。

今年の高専ロボコンは新型コロナウイルスの影響で例年通りの開催ができず高専ロボコン史上初のオンラインで開催されました。

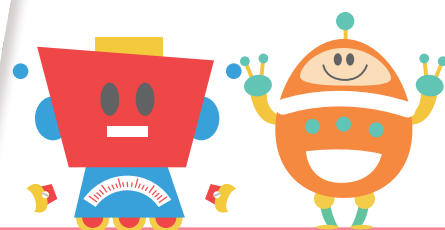
出場を辞退する部員もいましたが、『コロナに負けるな！やっけーうちなーパワー』を合言葉に2年生3人で参加しました。

新型コロナウイルスの影響で活動が制限され大会2週間前から平日の空き時間を使いながらロボット製作を行いました。

今回テーマが誰かをハッピーにするロボットを作ることだったので、新型コロナウイルス感染収縮を願い琉球獅子舞のロボットを製作しました。

大会では東京エレクトロン株式会社様より企業賞を頂きました。

近年これといった大きな結果を残せてないロボット製作委員会ですが『やっけーうちなーパワー』を合言葉に7年ぶりの全国大会出場を狙っています。



ISIE2020の大会結果報告

情報通信システム工学科4年生

キンジョウ リュウ マ
金城 琉馬

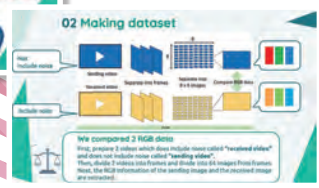


私はオンラインにて ISIE2020 という国際シンポジウムに参加しました。最近話題の人工知能や機械学習にとっても興味があったので、コロナの状況下で混雑するネットワーク通信の速度を AI・機械学習を用いて推定するというテーマのもと取り組みました。

私以外にも興味を持ってくれた同じクラスのメンバーとオンラインでアイデアを出し合いながら協力して研究をしました。データの加工や画像認識等の技術はもちろん、英語での論文やスライドを作成するなど初めてで不慣れな部分もあり大変な思いはたくさんしましたが、最終的に銀賞を取ることができてとても嬉しく思います。また九州地区の高専生やマレーシアの大学生の研究内容もとても斬新で、着眼点と質の高さにすごく驚きました。

今回はオンラインという状況下でもあり色々制限された部分もありましたが、それでも1つのテーマに対してみんなで粘り強く研究し、想像以上に大きな知見と経験を積むことができました。家にも頑張れることはいくらかでもあるのだなと強く感じますし、これからも興味のあるトピックに対して無我夢中で取り組んでいこうと思います。

結びになりますが、面白い角度からアイデアを生み出し協力してくれたメンバーと、論文の訂正に協力してくださった先生方に感謝いたします。これからも沖縄高専生がこのようなオンラインでの活動で盛り上げてくれることを期待しています。



全国政府広報展開事業の様子



生物資源工学コース1年生

カワミツ ヒナコ
川満 日向子

私は昨年11月、政府広報展開事業の一環である「沖縄高専で学ぶ生物×ICT」に、パネリストとして参加させて頂きました。この事業を通して感じたのは、「知識や技術、自分の考え次第で、コロナ禍にある今を前向きに捉えることができる」ということです。ただ漠然とウイルスを恐るのではなく、まずはウイルスの性格を知ること。そして適切に対応していくこと。その上で、沖縄高専で学んだ微生物学の授業がとても役に立っています。世の中が変化し、「不自由なことが増えた」とばかり思っていました、パネルディスカッションを行う中で、この現状を打開するために新たな科学技術が生まれていることや、こんな状況だからこそ、初めての遠隔授業を経験させてもらったことに気が付きました。未曾有の事態の中を生きていることをチャンスだと捉え、高専で得た知識と技術をどう生かしていくか、私にできるwith コロナを探していこうと思います。



生物資源工学コース2年生

ヒガレイ
比嘉 黎

生物資源工学コース2年の比嘉黎です。11月に「沖縄高専で学ぶ生物×ICT」というシンポジウムが行われ、私も一部に登壇しました。参加を承諾したころはまさか動画配信されるとは知らず、後日詳細についてミーティングをした際に、政府！広報事業！オンライン！コロナ！という文言が躍る大きなイベントであることを知り、正直断ろうかなとも思いました。しかし、結果としてとても貴重な経験をさせていただき、断らなくてよかったと思っています。今回のシンポジウムにおいて、私が登壇したパートでは、沖縄高専での講義の様子を再現した池松先生の講演と、コロナ禍で私たち学生が実際にどのように講義を受けていたかの紹介をさせていただきました。高専に興味を持っている小中学生、あるいは高専について知らなかった方々に、今回の講演を通して沖縄高専の様子をお届けできていればとてもうれしく思います。



機械システム工学科

ミヤギ ムク
宮城 武玖

私のこれまでの人生において、旅客機を利用した回数は同年代の人たちと比べれば格段に多いと思っています。幼少期より、年に数回、祖母を訪れる際には必ず旅客機を利用していたからです。記録はしていませんが、生涯マイルはそこそこのビジネスマン（日本国内を移動する人限定）に匹敵するものと思っています（笑）。このような体験から、自然に航空機に興味を持つようになり、さらには、生涯付き合っていくべきものではないか、との想いを持つようになりました。

中学3年生になり、進学を考える上で、「早く航空機に関することを学びたい」、「早く航空技術に触れたい」との思いが強くなり、工学を学びながら、航空技術を学ぶことができる沖縄高専の存在を知ることとなりました。いろいろ調べた結果、航空技術に一番近いと感じた機械システム工学科を志望し、入学することとなりました。

そのような想いで高専生活をスタートさせたわけですが、先生方との普段の会話や企業の方とお話しする機会を通じて、ものづくりに対する考え方や社会の位置づけを強く認識することで、製造・開発業に魅力を感じるようになりました。また、航空技術者プログラムを受講していく中で、航空整備士以外にも航空機に関する多くの職業があることを知り、それらにも興味を持つようになりました。しかし、本科で学んだことだけでは航空・宇宙産業に関する知識が不十分であり、就職できる範囲（活躍できる場所）が限られることがわかり、進んで航空・宇宙産業に関する知識の幅を広げ、成長していきたいと考えました。航空工学を学ぶことのできる大学への編入学も考えましたが、学びや環境の継続性を重視して、専攻科への進学を決意しました。

今年度は、例年とは異なり、新型コロナウイルス感染症の影響で、オンデマンド授業が学校生活の半分以上を占めることになりました。自宅にいる時間が長く、考え事をする時間が増えたことで、自分が今後取り組みたいもの、取り組むべきものを明確に発見できた一年だったと感じており、コロナ禍での一番の収穫だったと思っています。

専攻科では、今年度感じた多くの思いを形にし、さらに航空工学に関する知識を深め、今後の進路に役立てていけるよう、頑張っていきたいと思っています。



情報通信システム工学科

オオシロ タイシ
大城 太志

こんにちは！情報通信システム工学科5年の大城太志です。就職活動では、エネルギーインフラの企業に内定をいただくことができました。

就活活動を振り返り、私が伝えたいことは2つあります。1つ目に「友人と面接練習をする」、2つ目に「就活・進学活動報告書を読む」です。

1つ目では、面接の本場を想定して友人達とteamsを使用して面接練習を行いました。一人が「志望者」約で残りの「面接官」役で面接練習を行い、面接官役一人一人からフィードバックを貰うという方法で行いました。この練習は友人の良い点を吸収し、お互いで良い点、悪い点を指摘することで、効率良く成長することができます。録画機能を使う事でいつでも練習を見返すことができるので、練習の際は録画機能を使うことを強くおすすめします。友人達の日々の意地悪な質問で、面接本番では十分に実力を発揮できました。

2つ目では、高専生なら過去問がどれだけ大切か理解していると思います。「就活・進学活動報告書」はこれまでの先輩が残してきた過去問です。面接の質問の内容や注意点、行ったテストの形式などが細かく記載されています。読むと読まないのでは、大きな差が開くので必ず読みましょう。

皆さんの進路がより良いものになることを祈念いたします。



メディア情報工学科

イシハラ
石原 さき

私がこれから就職活動を行う皆さんに一番伝えたいことはまず「相談する」ということです。誰でも就職活動という経験はしたことがないと思います。そのため、何から始めたらいいのか、そもそも自分がどういった職業に就きたいのか、分からない事もたくさんあると思います。しかしだからといって就職活動を行わないという選択肢はほぼありません。

何もしないのではなく、先生方や先輩、両親などに相談してまずは説明会参加してみる、自分が興味のある会社を探してみるなどその時の自分にできることをまずはやってみてください。何かしらのきっかけや気づきが得られるかと思っています。

自分がこれから何をしていきたいのか、どういった職種が向いているのか、どんな環境で働いていきたいのか。自分についても改めて知る事ができるいい機会にもなると思います。

卒業研究に就職活動等、高専生活の中でも特に忙しくなるとは思いますが、考え、行動し、悔いのない1年を過ごせるよう頑張ってください。



生物資源工学科

ハママト ソラ
濱元 大空

私は、推薦での編入試験を受け大学への編入が決定しました。

今年度は、コロナウイルスの影響により例年とは異なる形での編入試験でした。

また、学校への登校ができない期間も長く、気分転換が難しかったり周囲の学生の状況が分からないなど不安も多かったです。しかし、早いうちから進路先を決定していたので、ある程度早めの対策を行いました。そのため、少し気持ちに余裕をもって編入試験を乗り越えることができたと思います。これから進学・就職に立ち向かうみなさんも、早めの事前準備でコロナ禍であろうとなかろうと希望の進学・就職先に進めるとしています。また、低学年の時からでも、大学説明会や企業説明会に参加することで、早めの進路決定ができると思います。これから、就活・編入試験勉強などで沢山悩むこともあると思いますが、そこに行きたいという強い気持ちがあれば必ず乗り越えられると思います。今ある時間を大切に、どんな進学・就職先に進みたいのか是非考えてみてください。



機械システム工学コース

オギドウ モリアキ
荻堂 盛彬

私が専攻科への進学を決意した理由は、当時行っていた卒業研究を自分なりに納得できるまでやり遂げたいという思いがあったからです。個人的に専攻科は、卒業研究を継続できるだけでなく、人間関係や環境の変化に悩まされることなく研究に専念できる快適な環境ではないかと考えています。研究活動が続けるうち、私は大学院への進学を考えるようになりました。一番の理由は、大学院に行き、修士号を取得すれば将来の選択肢が増えると考えたからです。かなり身も蓋もない理由ですが、両親のすねをかじりながら専攻科で学び、将来的にかじった分を両親に還元しなければならぬ身としては、私にとっては非常に重要なことでした。もちろんそれだけではなく、自分が目標としているところへ向かうためにも大切なステップでした。これからさらに数年、親のすねを骨までかじり尽くすことを覚悟して、奨学金とアルバイトで極力負担を減らすという条件で、長岡技術科学大学への進学を決めることができました。

進学に際しては、第一希望の大学院には合格することができず、自分の力不足を痛感しました。専門科目の勉強不足もあったとは思いますが、一番の理由は英語力の不足だったと思います。TOEIC や TOEFL のスコアは大学院進学に極めて重要で、大学によっては規定に達していない場合、問答無用で落とされます。英語はグローバル化がますます進む今の社会に必須なものです。進学するにしても、就職するにしても、自分なりに英語に対する苦手意識を克服しておくことをお勧めします。さらにもう一つ、先のことは早めに考えて、早めに行動しておいたほうがいいと声を大にして言いたいです。私の場合、進学先を決めるのが遅すぎたというのも落ちた原因の一つなので…（泣）

新型コロナウイルス感染症の大流行による混乱や希望の大学院に落ちる等、専攻科2年では踏んだり蹴ったりでしたが、今置かれている状況で、腐らずに最大限に努力できるのが一番大切なことだと思います（断じて負け惜しみではありませんよ？違いますよ？）。皆さんも大変な状況ではあると思いますが、周りの人々と協力しながら、時には愚痴や弱音を吐きながら、お互いに頑張っていきたいです。



電子通信システム工学コース

ニ カワドリ ダイ
荷川取 大

私の就職活動は、通常の就職活動の選考プロセスとは少し異なるものでした。内容として、専攻科の長期インターンシップというカリキュラムを利用し、3ヶ月の間インターンシップに参加しました。インターンシップを引き受けてくださった企業は沖縄セルラー電話株式会社で、通信するための基地局を設立し、保守まで行う会社です。インターンシップでは、沖縄各地の通信品質の調査、基地局の障害対応などをし、充実した3ヶ月を過ごしてそこから他大学生や本科生よりも早く選考を受けることができ、無事採用していただきました。

このように、専攻科には長期インターンシップというカリキュラムがあるため、就職活動も円滑に進めることが可能だと考えております。専攻科に進学する理由として、研究が好きだから、大学院進学を有利にしたいからなど様々な理由があると思いますが、長期インターンシップに参加して就職活動を有利にするという理由で専攻科の進学を考えてもいいと思います。

最後に、進路に関して色々悩まれることかと思われますが、妥協はせずに悔いの残らないように頑張ってください。



電子通信システム工学コース

キンジョウ ユウト
金城 悠斗

思い返せば小学生のとき、学生寮と校舎を繋ぐあまりに大きな橋に胸を躍らせたのがきっかけでした。そのときからぼんやりと沖縄高専への入学を目指すようになり、気付けば7年間の学生生活が終わろうとしています。

はじめは周囲の勉強意欲の高さに驚き、講義についていくのが精一杯でした。しかし優しい友人達や、頼りになる先輩方、そして真摯に向き合ってくれる先生方に会えたことで今の自分があります。恵まれた環境で勉強を続けることができたのが何よりの幸せだと感じました。

さて、今年度の進学・就職活動については新型コロナウイルスの影響により、日程の変更やWeb面談などこれまでにない新しい取り組みの中で行われ、学生にとって不安が残る中での活動でした。私は大学院進学を目指し、研究活動や入試対策勉強、進学した先輩のアドバイスもあり合格することができました。まだまだ知識不足や経験不足が否めませんが、沖縄高専で学び得たことを活かし、新たな挑戦に向けて進んでいきます。

最後になりますが、手厚く指導してくださった先生方、長い学生生活を共に過ごしてきた11期の友人達、頼りになる先輩や後輩達、なにより様々な面で支えてくれた母に深く感謝の意を表します。ありがとうございました。



生物資源工学コース

アラサキ タカヒロ
新崎 高弘

私は、本科を卒業し専攻科に入学ときには「就職しよう、、、」ということで頭がいっぱいでした。本科生のころの同級生は当たり前のように就職し、SNSを見てみれば当たり前のように社会人として仕事をしている、そんな光景を見て「自分もちゃんと就職できるのだろうか」とひたすら心配でした。それでも、私は考えるより行動する派なので、業界研究会に参加した際に、やりたい仕事であること、それに見合う対価が支払われること、楽しそうな企業であること、を重点に就職先を考えました。結果として、製薬会社から内定を頂き、4月からはいよいよ社会人になります。

ここまで来るにはもちろん自分一人では到底不可能で、支えてくれた先生方や同級生、先輩方には深い感謝を申し上げます。これからの沖縄高専の後輩達も、大変な時代になると思いますが、前向きに逆境を乗り越える力を持って、残りの学生生活を謳歌して下さい。これからのご活躍を祈念致します。

後援会会長挨拶



沖縄工業高等専門学校後援会

サキヤマ トシノリ
会長 崎山 敏雅

今春、めでたく沖縄高専を卒業ならびに修了される学生の皆様、そして、今日まで彼らを物心両面で支えてこられた保護者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

時の流れは早く、緊張に包まれながら沖縄高専に入学した日をついこの前のことのように思い出される方も多いのではないのでしょうか。入学以来、先生方の親身に時に厳しいご指導と、クラスや寮の友人たちの支えと励ましのお陰で、学生たちは遅く成長して巣立ちの日を迎えました。勉強や創造研究に専心した人、課外活動でその能力を発揮した人、学生会や寮生会で組織運営やコミュニケーション能力を培った人など、学生一人ひとりが自分らしく高専生活を過ごされてきたと存じます。

とは言え、2020年初めから現在も猛威を振るう新型コロナウイルスの感染防止のために予定されていた学習計画と行事、課外活動はほぼ全て中止や変更を強いられました。入寮日の延長とリモート授業で友達に会えない日々を過ごし、学生最後の高専祭は中止となり、期待していた思い出作りの時間と場を奪われてしまいました。それを悲しむ間もなく、リモート就活や進学試験に奮闘し、三密とソーシャルディスタンスに制限された不自由な条件下で卒業研究・卒業論文を完遂しました。

沖縄高専最後の一年間でやりたかったことをコロナ禍で全て失われて悔やむ反面、こんなに不自由で辛い時期でも進路決定と卒業・修了の二大目標を勝ち取った学生たちを手放して褒めてあげたいです。同時に、彼らの学生生活と健康を守り続けた保護者の皆様に心から敬意を表します。

最後になりますが、今年度の後援会活動は会員の皆様のご期待に副えるものとは言い難かったことを反省しております。今後は沖縄高専生の学びの安定と進路指導支援に努めて参りますので、引き続き後援会へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■就職・進学・志願状況

【令和3年3月卒業予定者の進路状況】

令和3年2月1日現在

	区分	学科				合計
		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
合格状況	卒業予定者数※2	30	40	35	34	139
	進学希望者数	16	8	4	17	45
	合格者数	15	8	4	15	42
	うち3年次編入等合格者数	9	4	0	7	20
	うち専攻科合格者数	6	4	4	8	22
	うち専門学校・その他合格者数	0	0	0	0	0
	進学内定率 (合格者数／進学希望者数)	93.8%	100.0%	100.0%	88.2%	93.3%
	進学予定先※1	沖縄工業高等専門学校専攻科(6) 香川大学 鹿児島大学 九州工業大学 千葉工業大学 東京大学 名古屋工業大学 名古屋大学 琉球大学(2)	沖縄工業高等専門学校専攻科(4) 鹿児島大学 東京農工大学 豊橋技術科学大学 横浜国立大学	沖縄工業高等専門学校専攻科(4) 岡山大学 九州工業大学 東京農工大学 長岡技術科学大学(3) 名城大学		
	就職希望者数	13	32	29	17	91
	内定者数	12	30	26	15	83
内定状況	内定率 (内定者数／就職希望者数)	92.3%	93.8%	89.7%	88.2%	91.2%
	内定先企業名※1 (県内) 県内に本社のある企業	沖縄電力株式会社 沖縄県警察 名護市役所	株式会社沖縄富士通システムエンジニアリング 沖縄セルラー電話株式会社(2) 日本トランスオーシャン航空株式会社	株式会社ピーンズラボ 株式会社ウィッツ沖縄 株式会社ソフトウェアサイエンス		
		計3名 内定者に占める割合 25%	計4名 内定者に占める割合 13%	計3名 内定者に占める割合 12%	計0名 内定者に占める割合 0%	県内計10名 内定者に占める割合 12%
	内定先企業名※1 (県外) 県外に本社がある企業	出光興産株式会社(3) 株式会社JALエンジニアリング 株式会社ウイルテック 株式会社タマディック 東京エレクトロン株式会社 日本精工株式会社 矢崎総業株式会社	株式会社サイバーエージェント ソフトバンク株式会社 NTTデータソフィア株式会社 出光興産株式会社(2) 株式会社JALエンジニアリング エスアイエス・テクノサービス株式会社(2) 矢崎総業株式会社 日本無線株式会社 アマゾンジャパン合同会社 関西電力株式会社 NTT東日本グループ会社(3) グリー株式会社 横河ソリューションサービス株式会社 JXTGエネルギー株式会社 株式会社コンピュータマインド(2) 三菱地所コミュニティ株式会社 NTTコムソリューションズ株式会社 トランスコスモス株式会社 KDDIエンジニアリング株式会社 株式会社アルプス技研(2)	株式会社日立情報通信エンジニアリング(3) ビクシブ株式会社 ワンダープラネット株式会社 大阪シーリング印刷株式会社 株式会社メンバーズ(3) 株式会社NSコンピュータサービス 株式会社ビーネックスソリューションズ 株式会社システムゼウス 株式会社トヨタシステムズ 株式会社日立ハイシステム21 NTT東日本グループ会社 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター 株式会社カブコン ヤフー株式会社 株式会社サイバーコネクトツ アイフォーコム株式会社 株式会社ハイマックス カーナベル株式会社 株式会社スターシステム	サントリーホールディングス株式会社(3) 三洋化成工業株式会社 花王株式会社(2) 麒麟ビバレッジ株式会社 株式会社三井化学分析センター 株式会社NTTデータフロンティア KMバイオロジクス株式会社 雪印メグミルク株式会社(2) 伊藤忠製糖株式会社 日本クッカーリー株式会社 有限会社瑞穂農場	
		計9名 内定者に占める割合 75%	計26名 内定者に占める割合 87%	計23名 内定者に占める割合 89%	計15名 内定者に占める割合 100%	県外計73名 内定者に占める割合 88%

※1 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。
※2 卒業予定者数には留学生を含む。
※3 機械システム工学科卒業予定者のうち1名は就職・進学を希望しない(自営業)。
※4 メディア情報工学科卒業予定者のうち1名は就職・進学を希望しない、1名の留学生は帰国予定。

【令和3年3月修了予定者の進路状況】

令和3年2月1日現在

	区分	コース				合計
		機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
合格状況	修了予定者数	5	10	1	8	24
	進学希望者数	1	3	0	3	7
	合格者数	1	3	—	2	6
	うち大学院等合格者	1	2	—	1	4
	うち専門学校・その他合格者数	0	1	—	1	2
	進学合格率 (合格者数／進学希望者数)	100.0%	100.0%	—	66.7%	85.7%
	進学予定先※	長岡技術科学大学大学院	熊本大学大学院 広島大学（3年次編入） 北陸先端科学技術大学院大学		琉球大学大学院 朝日医療専門学校	
内定状況	就職希望者数	4	7	1	5	17
	内定者数	4	7	1	5	17
	内定率 (内定者数／就職希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	内定先企業名 (県内) 県内に本社のある企業	沖縄グローバルシステムズ株式会社	沖縄セルラー電話株式会社			
		計1名 内定者に占める割合 25%	計1名 内定者に占める割合 14%	計0名 内定者に占める割合 0%	計0名 内定者に占める割合 0%	計2名 内定者に占める割合 12%
	内定先企業名 (県外) 県外に本社がある企業	株式会社グランゼーラ 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター スチールプランテック株式会社	KDDI 株式会社 NTT 東日本グループ 株式会社 IHI エスキューブ (2) 富士電機株式会社 (2)	ヤフー株式会社	旭化成株式会社 花王株式会社 (2) 株式会社オーエスデザイン 中外製薬工業株式会社	
		計3名 内定者に占める割合 75%	計6名 内定者に占める割合 86%	計1名 内定者に占める割合 100%	計5名 内定者に占める割合 100%	計15名 内定者に占める割合 88%

※1 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

令和2年度沖縄工業高等専門学校 卒業式・修了式実施要項

〔1〕 挙行日時

令和3年3月13日(土) 13時00分～14時00分

〔2〕 挙行場所

名護市民会館(大ホール)

〔3〕 式次第

1. 開式の辞
 2. 卒業証書・修了証書・学位記授与(代表者のみ)
 3. 校長告辞
 4. 来賓祝辞
 5. 在校生送辞
 6. 卒業生答辞
 7. 修了生答辞
 8. 学生表彰
 9. 校歌演奏(CDによる演奏)
 10. 閉式の辞
-

〔4〕 受付時間

令和3年3月13日(土) 10時30分～
(機械卒業生・機械コース修了生／情報卒業生・電子通信修了生)

11時15分～
(メディア卒業生・情報修了生／生物卒業生・生物修了生)

12時00分～
(保護者・報道関係者)

〔5〕 注意事項

- ・入館の際は、マスクを着用するようお願い申し上げます。
- ・検温の際、37度以上の発熱症状が場合は、入館を控えていただく場合があります。
- ・卒業生及び修了生に対し、保護者の方は1名のみ入館可能です。
(介添えが必要な場合は、別途対応いたします。)
- ・感染者が発生した場合に備え、追跡調査のご協力をお願いします。